



# 議会図書室からのお知らせ

今月の新着図書  
R6年2月号

## 『エッセンシャルワーカー ～社会に不可欠な仕事なのに、なぜ安く使われるのか』

労働問題

田中洋子【著】/旬報社 (2023/11)



保育士、介護士、ゴミ収集作業員、ドライバーなど社会に必要不可欠な仕事(エッセンシャルワーク)にもかかわらず、なぜ労働待遇が悪いのか。あまり知られていない仕事の実態や待遇悪化の原因、それらが我々の社会にどう跳ね返るのかを明らかにする。

## 『食料危機の未来年表 ～そして日本人が飢える日』

食糧自給率

高橋 五郎【著】/朝日新聞出版 (2023/10)



実際の日本の食料自給率は「18%」しかない! 有事での穀物支配国の動向やサプライチェーンの分断、先進国の食料争奪戦など日本の食料安全保障は深刻な危機に直面する。182カ国同一基準で算出した食料自給率を世界初公開し先進国の「隠れ飢餓」を暴く。

## 『地方創生先駆者モデル ～「共助」が生み出す新たな戦略』

地方創生

地方創生先駆者会議【監修】/EYストラテジー・アンド・コンサルティング【著】中央経済社 (2023/11)

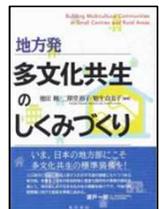


地方創生の「型」とは? 7人の識者が属人的ではない地方創生の新たなスタンダードを現場での視点から具体的に紹介。若者が地方に魅力を感じる取組やヒントを探る。ウェルビーイングとソーシャルベンチャーを主役に据えた地方創生の新たな指南書。

## 『地方初 多文化共生のしくみづくり』

多文化共生

徳田剛・二階堂裕子 他【編著】/晃洋書房 (2023/10)



人口減少に悩み、外国人の受入が不可避の課題となりつつある地方。日本の移民政策と国内外の事例の検討を通じ、地方での多文化共生の課題を掘り下げ、これからの態勢整備に向けた提案を試みる。地方での多文化共生へ果敢に挑む1冊。

## 『リトリート ～日本人のための「新疎開」のすすめ』

リトリート

山本竜隆【著】/旬報社 (2023/10)



都市から田舎へ新疎開と言うべき潮流が始まっている。今なぜ「リトリート」が求められるのか。私たちはどう「リトリート」を活用し実現していけばいいのか。不安な現代を生き抜くためのライフスキルを、富士山麓でリトリート施設を運営する医師が解説。

## 『無礼語辞典』

言語

関根健一【著】大修館書店編集部【編】/大修館書店 (2023/8)



「感心する」「相変わらず」「やっ」と、何気なく使う言葉でも相手や場面によっては無礼になりうる言葉、約600語とその言い替え表現を掲載した実用辞典。信頼喪失を防ぎ、敬意と優しさのあるコミュニケーションが実現できる1冊。

## 『新版 科学がつきとめた「運のいい人」』

話題

中野信子【著】/サンマーク出版 (2023/9)



「運」は生まれつき持つものではなく、思考や行動次第で変えることができる! 脳科学者である著者が「自分事としての思考」「他者との共生」「目標や夢の自己決定」など運のいい人の思考・行動習慣を紹介。1年のはじまりに読んでみたい今話題の1冊。

## 『きみのお金は誰のため ～ボスが教えてくれた「お金の謎」と「社会のしくみ」』

経済

田中学【著】/東洋経済新報社 (2023/10)



国の借金、老後資金、貿易赤字など、今さら聞けない「お金」の不安や疑問。6つの謎を解くことで世界の見方が変わり、不安や疑問を解消できるという経済教養小説。所得・投資・貯金にとらわれず、人生も社会も豊かにできる! 楽しく学べる「お金」の講義。

## 『日本の消防行政の研究 ～組織間関係と補完体制』

消防行政

永田尚三【著】/一藝社(2023/5)



戦後「理系中心の火災学」に傾きがちだった消防・防災問題について、「行政学」の視点から組織・制度の課題を問う。また阪神・淡路大震災、東日本大震災の対応などの具体事例を挙げ、国と地方自治体による災害対応についての新事実を明らかにする。

▶トピックス：「子どもの権利」に関する書籍

新着

『子どもアドボカシーと当事者参画のモヤモヤとこれから～子どもの「声」を大切に作る社会ってどんなこと？』

柴留里美・長瀬正子 他【著】/明石書店 (2021/12)



深刻化する児童虐待を受け「子どもの権利保障の重要性」が指摘されるが、実現はまだまだ見通せない。「アドボケート」「当事者参画」の視点を軸に、子どもの声の回復と支援に求められる「支援者の真髓」を伝える書。

新着

『地域学校協働のデザインとマネジメント～コミュニティ・スクールと地域学校協働本部による学びあい・育ちあい』

熊谷慎之輔・志々田まなみ 他【著】/学文社 (2021/3)



地域で子どもを支える「地域学校協働」の未来を、組織的取組のための短期・中期・長期的な見通しによる計画・組織・体制の「デザイン」の在り方、持続的・円滑な目的達成のための「マネジメント」の在り方の2視点からわかりやすく解説。

新着

『施設訪問アドボカシーの理論と実践～児童養護施設・障害児施設・障害者施設におけるアクションリサーチ』

柴留里美・鳥海直美 他【著】/明石書店 (2022/2)



施設の外から利用者の思いを聴き、意思表示と実現を支援する「施設訪問アドボカシー」を児童養護施設・障害児施設・障害者施設で実践した経験をもとに分析し理論化。日本初のアクションリサーチ研究成果。

『学校弁護士～スクールロイヤーが見た教育現場』

神内聡【著】/KADOKAWA (2020/10)



いじめ、ブラック校則、部活動、教師の長時間労働…。なぜ違法が横行しているのか。教師でありスクールロイヤーとしても活動する著者が、安易な待望論に警鐘を鳴らし、現実的な解決策を提示する。



図書広報委員がおすすめる一冊

『北関東の異界 エスニック国道354号線』

～絶品メシとリアル日本～



著者 室橋裕和/新潮社 (2023年3月) 紹介者：加賀谷 富士子 委員  
リベラル群馬・伊勢崎市選出・3期

私が住む伊勢崎市は、県内でも外国人住民が一番多く住む地域です。そのため、外国人が利用する商店や飲食店も多く、しかも、それが日本仕様になっていなかったり、現地感が漂っていたり、雑多な感じで独特な匂いがしたりと、「群馬なのに海外」な気持ちになれる場所がたくさんあります。県外から友人が遊びに来たときなど、伊勢崎市内のそういったお店に連れて行くと、皆さん感激するので、いつか外国人向けショップのガイドブックができないかな…とっていました。

そんなとき出会ったのが、この本。国道354号線が走る伊勢崎市、太田市、大泉町、館林市の外国人向けショップやその背景の宗教や文化の紹介があり、「群馬のディープな歩き方」ができそうな、目次を読むだけでもわくわくする本です。

次号では、あべ ともよ 委員におすすめさせていただきます！



議会事務局政策広報課 (議会図書室)